



Title	Protective effects of a hibernation-inducer on hepatocyte injury induced by hypothermic preservation
Author(s)	犬尾, 浩之
Citation	(2010-07-31)
Issue Date	2010-07-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10069/25108">http://hdl.handle.net/10069/25108</a>
Right	

This document is downloaded at: 2020-10-27T21:43:04Z

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）乙第 1798 号	氏名	犬尾 浩之
論文審査担当者		主査教授	篠原 一之
		副査教授	永安 武
		副査教授	中尾 一彦
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は、冷保存による肝細胞障害に対する合成冬眠誘導物質 (D-al2-Leu5-enkephalin, DADLE) の保護効果を明らかにしたものであり、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価 ラット培養肝細胞を合成冬眠誘導物質存在下、あるいは非存在下で 24 時間、4℃で保存した後、肝細胞の細胞生存率、細胞障害、細胞機能を調べた。細胞生存率は Trypan blue 法によって、細胞障害は alanine aminotransferase (ALT) 濃度、lactate dehydrogenase (LDH) 濃度測定によって、細胞機能は albumin 産生能、lidocaine 除去能によって調べられており研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、DADLE は肝細胞の冷保存に対して細胞生存率の改善をもたらし、また復温しても細胞障害をもたらさず細胞機能にも影響を及ぼさない可能性が示唆され、今後の肝細胞治療法研究の進展が大いに期待される。</p>			
<p>以上のように本論文はヒト肝細胞の保存法および肝細胞治療法の確立に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			